

## エストニアの日本語教育事情

エストニア日本語教師会・会長 高橋清彦

1. 歴史 1991年8月、旧ソ連邦より独立回復  
それ以前に1918年から1940年まで「エストニア共和国」として独立国の時代があり、エストニア人は一次独立時代と呼んでいる。
2. 人口 (1997/1 現在)

エストニア人	95 万人	(65%)
ロシア系住民	42 万人	(29%)
ウクライナ、白ロシア、	10 万人	(6%)
フィンランド系及びその他		
147 万人		
3. 公用語： エストニア語（フィン・ウゴール語系）エストニア国籍を取得するには言語法」の制約がある。すなわち国家所定のエストニア語の試験があり、それに合格しないとエストニア国籍を与えない制度であり、外国人は容易に国籍を取得し難い。その言語試験の程度はかなり高度で、かなり正規に長期間の勉強をしないと到底合格出来ない程度のレベルである。特に文法的に正確な表現を要求される。
4. 義務教育： 12年間〔最終は普通高校、又は職業専門学校〕  
高等教育： 大学 4年間 7校（国立 5校、私立 2校）  
大学院：           "  
高等専門学校       25校
5. エストニアでの日本語教育機関 4 校  
大学院レベル以上： 無し  
大学：               3校（国立タルツ大学、私立エストニア人文大学、国立タリン教育大学）  
高校：               1校（タリン市立ヤルヴェオツア高校）
6. 日本語学習者数：（現在学習中の学生数）
  - 1) 国立タルト大学：  
1997年9月 日本語講座開講  
現在は哲学部言語センター所属の外国語講座と言う位置付けにある。  
学生数：       約 30 名  
履修2年終了（初級後半）   3年目コース 10名  
履修2年済み（初級前半）   2年目コース 10名  
履修1年済み（初級開始）   1年目コース ?名

---

30名

卒業生：                                   0名

使用教材   初級   日本語初歩 及び教師自作の教材  
            中級   日本語中級読解入門、Basic 漢字 500、及びビデオ教材を元に教師自作の副教材使用

2) 私立エストニア人文大学：

1989年創立と日本語講座〔学科〕開始、現在は東洋学部日本語学科

学生数：	30名
内訳：	上級； 5名
	中級； 10名〔推定〕
	初級； 15名〔推定〕

---

	合計	30名
卒業生：		5名

使用教材	初級	日本語初歩
	中級	日本語中級読解
	上級	新聞、雑誌等からの生教材

3) 国立タリン教育大学：

2000年1月開講、哲学部オリエンタル。センター所属

学生数	15名
2年次（2年目）	7名
1年次（1年目）	9名

---

合計	16名
卒業生	0名

教材 別記の通り（別記タリン教育大学の紹介参照）

4) タリン市立ヤルヴェオッツア高校

学生数：	19名
内訳：	高3（履修2年済：初級前半） 8名
	高2（履修1年済：初級前半） 5名
	高1（9月から入門） 6名

卒業生：79名（内、3名はエストニア人文大学日本語科に進学）、日本の大学に留学中3名、10月から留学決定済2名、タリン教育大学に5名在籍しているが、同大学の日本語教室（2000年1月開講）は、まだ高校卒業生の日本語習得済能力に比し、大学生の到達程度と内容が低い。今年の9月から今年6月卒業生が同大学2年次の学習内容に一致した。クラスの学習内容が高くなれば、既に同大在籍者の高校卒業生が順次参加予定。その他の卒業生は、卒業後の現在は日本語とは縁なし）

教材 別記の通り（別記ヤルヴェオッツア高校の紹介参照）

5) 上記エストニア国内日本語学習学生総数：	約100人
上記エストニア国内日本語学習卒業生総数：	84人
	（内3人は上級学校の学生として重複）
合計日本語学習経験者	約180人

7. エストニア人の日本語話者： 約 10名
- 1) ソ連邦時代の日本語習得者： 4名
- 内訳： レニングラード大日本語科で習得 2名
- モスクワ大日本語科で学習 1名
- 独学で習得 1名

\* 旧ソ連時代には、エストニアで日本語を習得出来る組織的な機関は皆無。

(上記中、1名は在エストニア日本大使館勤務)

- 2) 独立回復後に日本語を実用レベルまで習得したエストニア人 約20名
- (1) エストニア人文大学卒業及び修了者 6名
- (内、2名は人文大学日本語教師、共に日本政府(文部省)奨学金留学生として日本での長期研修受講済、残りの4名中の2名は在エストニア日本大使館勤務)
- (2) タリン人文大学上級クラス在籍者 5名
- (内、2名は文部省日本語・日本文化専修奨学生で1年間日本で留学済)
- (3) 国際交流基金招聘の外交官日本語長期研修受講者(受講済) 3名

それ以外の上級学習者：

- 専門学研究者レベルでの奨学金による長期日本留学修了者 2名
- (4) 2000年度日本政府(文部省)奨学金留学生試験合格者にて留学中 1名

以上、各種奨学金による日本長期留学経験者(10ヶ月以上)及び自費留学者合計約20名、この人々が独立回復後に育った日本語話者として挙げられる。従い、現在ではエストニア国内に居る日本語実用レベルでの話者は、ソ連時代の旧世代の人々を含めても約20人程度であると思われる。

8. エストニアの日本語教師：

- |                 |    |   |
|-----------------|----|---|
| 1) 国立タルト大学      | 1名 | 宮野 恵理 氏   |
| 2) 私立タリン人文大学    | 3名 | Ms. Mallet Nukke<br>Mr. Alari Allik<br>正木 亜希子 氏 |
| 4) 国立タリン教育大学    | 1名 | 園部 広幸 氏   |
| 3) 公立ヤルヴェオツツア高校 | 2名 | 高橋 清彦<br>(1名他校と兼任) (園部 広幸氏)                     |
| 合計              | 6名 | (邦人4名、エストニア人2名)                                 |

その他に在野の人材として、タリン市内の私立語学学校の日本語教師 Ms. Janne Sakura、Eri Federburg (エストニア人文大学本年6月卒業) が居る。

以上